

TTcafe

『「友禅染の歴史の変遷について」— 素材・技法・意匠から —』

日時:2016年2月13日(土)15:00~16:30
会場:大阪府立江之子島文化芸術創造センター

今回は、金沢美術工芸大学工芸科教授の城崎英明氏を迎え、『「友禅染の歴史の変遷について」— 素材・技法・意匠から —』というテーマでお話をいただいた。城崎氏は、加賀友禅のデザイナーを経て現在は、大学で染めの実技指導を行うとともにアジア全般の染色研究なども行い、研究者としても活躍されている。スライドを交え、宮崎友禅斎と友禅染の変遷、京友禅と加賀友禅の意匠面での違いを詳しく説明いただいたり、日本における染めの変遷のお話し、友禅染の防染材料についてや、植物染料や媒染剤の使い方による色の表現や特性などを、現物を材料に分かりやすくお話しいただいた。友禅染は身近な染めであるが、日頃よく耳にしながらもなかなか系統立てて学ぶ機会も少なく、大変勉強になる内容であった。Café終了後も、お持ちいただいた友禅の裂や植物染料、防染材料などを手に取り、参加者は城崎先生を囲んで、時間ギリギリまで質問が尽きない充実した会となりました。



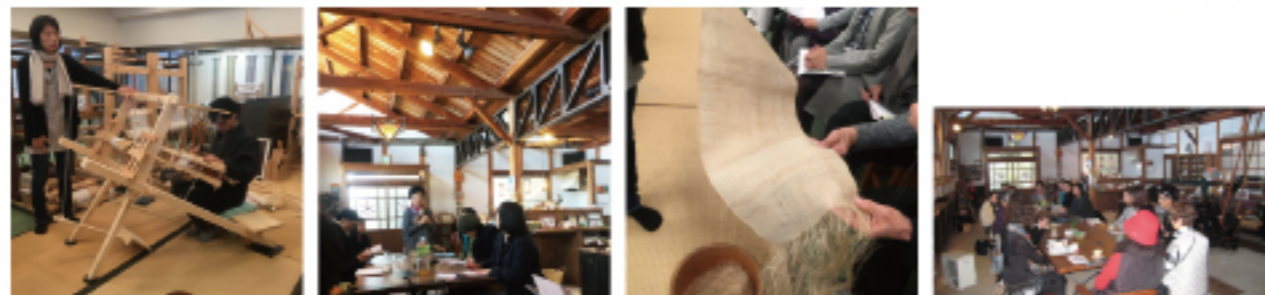
TTcafeレポート

日時:2016年11月23日(水)

麻の産地近江でLunch café

11月23日(水)祝日、秋のTTcafeが開催された。TDAでは定期的に布に関することを楽しく学び、気楽に語り合うことを目的にTTcafeを開催している。このたびは「麻の産地近江でLunch café」をテーマに滋賀県近江市で開催された。参加者は総勢15名。午前中は愛知川町にある「近江上布伝統産業会館」で麻素材の魅力や地場産業の取り組みについて講習を受け、全員で麻績(あさうみと読み麻の糸をつむぐことをいう)に挑戦した。貴重な体験で、先人の卓越した技術と継続する集中力にただただ脱帽する以外にはなかった。午後は会場を東近江市にある北川陽子さん(TDA理事補佐)が運営する「ファブリカ村」へ会場を移してランチの後、学習と交流会が行われた。ファブリカ村は先代が経営する北川織物工場を引き継いだもので、工場を改装し2009年現在のようなギャラリー、カフェ、ショップを併設した独特の施設を立ち上げた。当初は滋賀県のモノづくりを発信するアーツ&クラフツの拠点を目指していた。現在では人間らしい社会と暮らしを創る、改革の磁場を持った地域おこしの中心に位置し、子供たちの保育や感性教育、移住者の促進とケア、自然食の地産地消など、行政と「協働」して幅広い運動を進められている。繊維産業からスタートし、次世代社会に向けて様々な課題に取り組んでいる様子はとても力強く感じた。ちなみに当日のランチは全て地域の自然野菜で、絶妙な味付けもあって見事な豊かさを醸し出していた。一同感嘆の声が上がった。

文責 鈴木

第2回TTBAR <ニューデザイン・ニューアイデア>
2016ミラノサローネに見る新しいクリエイティビティ

講師:佐戸川和久氏(インテリアディレクター・ゼロファーストデザインSTUDIO Le caveオーナー)
2016年8月6日(土)19:00~20:00 (株)ゼロファーストデザイン ショールーム

西日本の「TT café」を規範とした「誰でも気軽に参加できる小セミナー・勉強会」である東日本の「TT BAR」は2014年末の第1回(講師:宮本英治氏)から開催が途絶えていたが、2016年総会基調講演の講師をお願いしたミラノサローネレポートの専門家:佐戸川和久氏と(株)ゼロファーストデザインのご協力を得て、8月6日に同社ショールームを会場とする「第2回TTBAR」が約1年半振りに開催された。

世界最大のインテリア見本市であるミラノサローネの膨大な情報を一時間のセミナーに集約するのは非常に困難な作業なのだが、今回は「若手」のクリエイター・デザイナー、またはそれらの作家や企業が集中する展示エリアに焦点を絞ることで、先の基調講演会とも差別化した専門的内容でプロフェッショナルの方にお薦めできるセミナーに巧くまとめ上げて頂いた。

具体的には、

- ①サローネ・サテリテ(衛星という意味。)世界各国の若手デザイナーのプロトタイプ/試作品が展示されるサローネ本会場内の特設イベント。約700組の出展者選別も非常にレベルが高くデザインプロフェッショナルを目指す若手にとって最高のプラットフォーム。著名デザイナーがここから多数誕生している。
- ②フォリ・サローネ(サローネの外という意味。)サローネと同時期のミラノ市街で開催されているデザインイベントの総称で、教会、古城などの歴史的建造物や倉庫、地下トンネルなどあらゆる使用可能な空間が用いられる。近年ますます主要エリアが拡大傾向にあり、若手クリエイターの活発な発信はもろろん、アートやアンティークなどの業界も巻き込んだ、デザインを核とした新しいビジネスモデルの実験場ともなっていて、今後も目の離せないイベントである。

これらを、動画を中心とした映像と共にレクチャーして頂き、フルカラー写真と解説、キーワード集を含むA4版レジメが配布された。開催が真夏の宵であったため、参加者にはビールまたはソフトドリンクがおつまみと共に供され文字通りのTT「BAR」となった。

(怡田 勉)

第3回TTBAR <時代がモリスに追いついた!>
“PURE MORRIS”ウィリアム・モリス没後120年記念発表への軌跡

講師:中尾幸子氏(マナトレーディング株式会社PRマネージャー)

聞き手:TDA怡田 勉 理事(対談形式)

2016年11月11日(金)18:30~20:30 マナトレーディング(株)ショールーム

没後120年を迎えた「近代デザインの父」ウィリアム・モリス(1834-1896)、そのモリスが今生きていたらどんなデザインを私たちに見せてくれるのか?...

同年10月初旬に代官山ヒルサイドフォーラムでの特別展から本邦公開された“PURE MORRIS”(ピュア・モリス)はまさにそのコンセプトに沿って練り上げられた名作モリスデザインのリファイン企画。お馴染みの「いちご泥棒」や「ウィロー・ボウ」などが驚く程 現代の生活にマッチしたスタイルにアレンジされている。

今回のTTBARではPURE MORRIS特別展のセンセーショナルな内容から更に一歩も二歩も進んで、名作デザイン誕生の背景やモリス本人の革新的な思想にまで遡る深掘りをした内容となった。具体的には、

- ①ウィリアム・モリス伝。彼の創作が志向した現代に通じる革新性について。
- ②アーカイブシリーズ。ハンドクラフトと機械化の融合。その時代にあったモリスへ/マイケル・バリー氏率いるモリスカンパニーのイノベーションと挑戦。
- ③全てはここに至る。PURE MORRISを生み出したコンセプト。現代だからこそ表現できる、モリスの思想が蒸留酒のように結晶したPURE MORRIS。

以上の内容をマナトレーディング(株)の顔として活躍されるPRマネージャー中尾幸子氏と、デザイナー・教育者としてモリスに注目する怡田理事が対談形式で、英国から取り寄せた貴重映像とファブリックサンプルを交えて解説した。また参加者にはフルページにわたり美しい写真を掲載するPURE MORRIS図録も配布された。